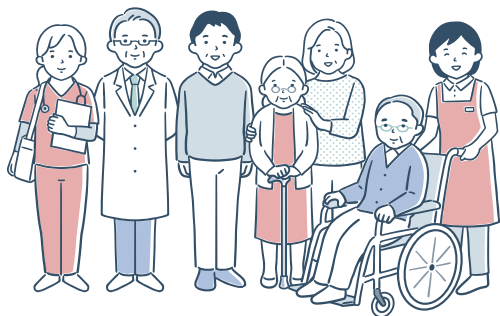


在宅療養について

～住み慣れた家で暮らし続けるために～

「ご自身や家族が、医療や介護が必要になったとき、どこで暮らしたいですか？」
市内に住む 65 歳以上の 1,000 人を対象とした調査で同様の質問をしたところ、半数以上の方が「自宅」での療養を希望することが分かりました。しかし、心の中では「自宅で暮らしたい」と思っているにもかかわらず、「家族に負担をかけたくない」「自宅でどのような医療や介護が受けられるかわからない」という思いがあり、実現するのが難しいと思っている方も多いのではないのでしょうか。

病気になっても、介護が必要になっても、住み慣れた家で自分らしく暮らしを続けられるようにしていく。それを叶える「在宅療養」のさまざまな医療や介護などのサービスについてご紹介します。



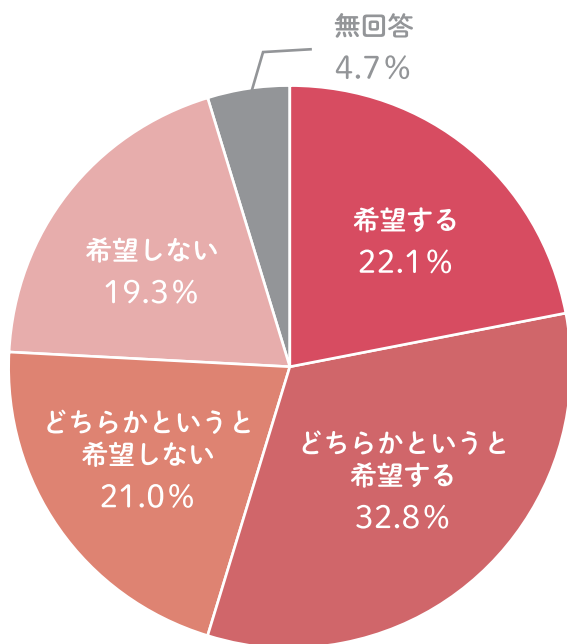
在宅療養とは？

通院が難しい高齢者や支援が必要な人が、住み慣れた自宅で、適切な医療と介護を受けながら療養生活を送る事です。

医療や介護が必要になったとき、どこで暮らしたいですか

資料：笠間市高齢福祉計画策定のためのアンケート調査（令和4年11月実施）

Q あなたが病気やけがで長期の治療・療養が必要になった場合、入院せず在宅での医療（療養）を希望しますか。



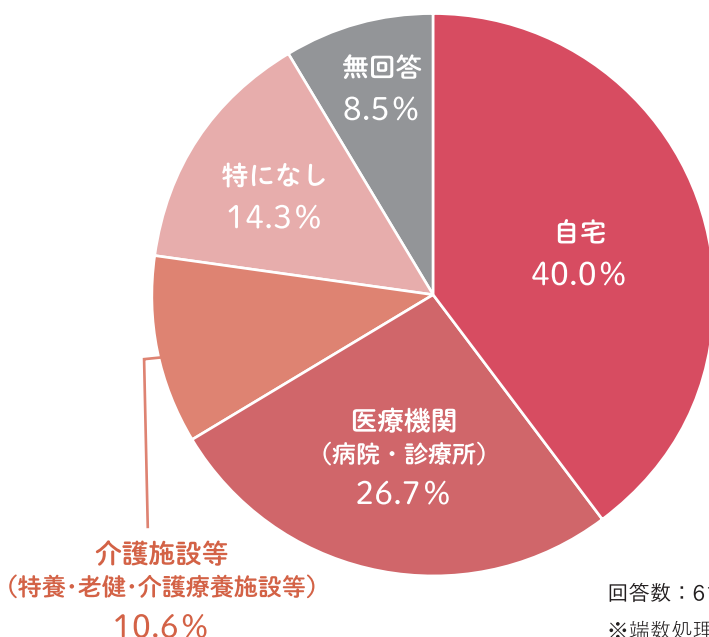
「どちらかという希望する」が32.8%で最も多く、次いで「希望する」が22.1%となり、**5割以上の方が在宅を希望**しています。

また、地域でどのような体制があれば在宅医療（療養）が可能になると思うか尋ねたところ、「家族の協力や理解」が最も多く、次いで「訪問看護や介護の体制が充実していること」となっています。

回答数：615名

※端数処理の関係で合計が100%になっていません。

Q 将来、あなた自身が最期を迎える場所として、希望するところをお選びください。



「**自宅**」が**40.0%**で最も多く、次いで「医療機関（病院・診療所）」（26.7%）、「介護施設等（特養・老健・介護療養施設等）」（10.6%）となっています。

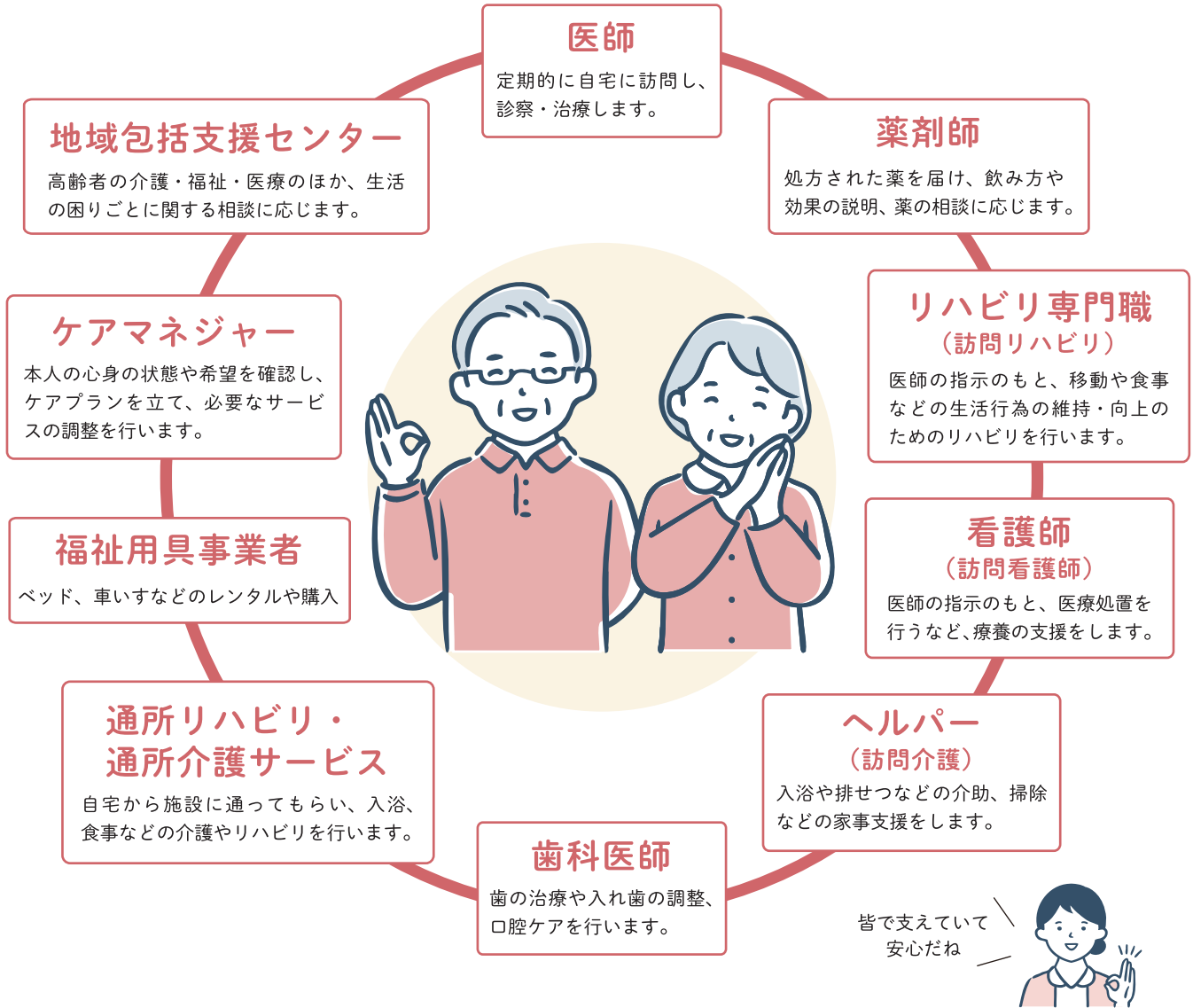
医療機関（病院・診療所）、介護施設等（特養・老健・介護療養施設等）と答えた理由を尋ねたところ、「自宅にいと家族に負担がかかるから」が最も多く、次いで「十分な医療・介護を受けたいから」、「家族がいないから」となっています。

回答数：615名

※端数処理の関係で合計が100%になっていません。

在宅で受けられる主な医療・介護サービス

住み慣れた家で暮らし続けるために、医師だけでなく、看護師、薬剤師、リハビリ専門職などのほか、ケアマネジャーやヘルパーなどが連携して、高齢者のみならず、介護者も含めて「在宅療養」を支えています。



在宅療養を始めるための相談先

入院をきっかけに在宅療養を始める場合や、家で過ごしてきた方が病状の変化などにより在宅療養を始めるなど、きっかけはさまざまです。

入院中の方



病院の医師 または
ソーシャルワーカー

介護サービスの利用やかかりつけ医との調整など、自宅に戻るための橋渡しをします。

自宅で生活している方



かかりつけ医または
地域包括支援センター

高齢者の医療や介護、生活に関するさまざまな相談に応じます。

要介護認定を受けている方



ケアマネジャー

自宅で安心して生活できるよう、介護サービスの利用について調整します。

このような方が在宅での療養生活を選んでいきます



脳梗塞で麻痺が残るが、自宅に戻り回復を図りたい A さん

Aさんが居間で倒れているところを、仕事から帰ってきた家族が発見し、救急車で総合病院へ搬送しました。Aさんは意識は戻ったものの、脳梗塞により右半身麻痺が残りました。

入院中、治療とリハビリに励んでいたところ、そろそろ退院という話が出ました。「自宅へ帰りたい」と思っていたものの、歩行がまだ不安定な状態のため、Aさんも家族も自宅での生活に不安を感じていました。

退院に向け、家族が要介護認定の申請を行い、その後、病院で病院関係者・本人・家族・ケアマネジャー・退院後に関わる介護関係者を交えて、自宅での生活の仕方や必要なサービスについて話し合いをしました。

Aさんは、安全に歩けるようにと、歩行器と玄関に据え置きの手すりをレンタルし、継続的にリハビリを行うため通所リハビリなどの準備を進め、退院しました。

ACP は年齢に関係なく、

それぞれが必要なことだね

最後まで自分らしく暮らすために



もしものときに備えて、自分が受けた医療やケア、自分の希望や大切にしていることについて、家族やかかりつけ医など周囲の人と話し合っておきましょう。想いを話し合っていれば、そのときに家族や周囲の人が、本人の意思を尊重した選択をすることができます。

このような取り組みを

人生会議

ACP：アドバンス・ケア・プランニング

といいます。

考えて

- 自分が大事にしていること、思っていること
- これからどう暮らしたいか
- 最期は、どこで、どのように迎えたいかなど…

書き留めて

- 話したことや考えたことをノートなどに書き留めておく
- 周囲の人があなたの意向を尊重して選択できます

話し合う

- 家族やかかりつけ医などと話し合い、共有しよう

在宅療養を支える医療介護連携



笠間市医師会会長・
笠間市立病院院長
いしづか けんお
石塚 恒夫さん

超高齢化社会を迎え、治らない病気や障がいを抱える方が増えています。食事や排泄などが困難になると、緩和ケア病棟や施設への移行が検討されます。しかし住み慣れた家での生活継続が理想であり、面会や外出も制限されるコロナ禍ではなおさらです。家族協力も必要ですが、医療と介護が連携すれば在宅療養を維持できます。在宅でも緩和ケアや経管栄養・点滴・酸素投与はできますし、24時間対応の訪問看護もあります。デイサービスやショートステイの利用で、家族負担も減らせます。試みる価値はありますので、選択肢の一つにしていきたいです。

私たちがサポートします



笠間市地域包括支援センター



市ホームページは
こちら

高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、介護・福祉・医療・生活支援などさまざまな面から、高齢者を支える「総合相談窓口」です。

相談時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分 ※平日のみ

住所：笠間市南友部 1966-1（地域医療センターかさま内）

電話：0296-78-5871

※地域包括支援センターは令和 6 年 4 月 1 日から、市役所本所に移転する予定です。